

提 言 書

三大都市圏を超高速で結ぶリニア中央新幹線は、時間短縮によるスーパー・メガリージョンの形成と、災害に強い国土を形成するための国家的プロジェクトです。

現在、東京・名古屋間では、諸課題の解決を図りつつ、東海旅客鉄道株式会社により、順次、建設工事が進められています。

このような中、去る6月7日に「経済財政運営と改革の基本方針」2022、いわゆる骨太の方針が閣議決定されました。その中で、リニア中央新幹線について、全線開業の前倒しを図るため、2023年から名古屋・大阪間の環境影響評価に着手できるように、沿線自治体と連携して、必要な指導、支援を行うとされています。

このことは、今後、名古屋・大阪間におけるルート及び駅位置の確定に向けた動きが一気に進展すると予想されます。

そこで我々は、この動きに的確に対応し、リニア中央新幹線の効果を奈良県全域の発展に生かすため、奈良県として一致結束して取り組み、ともに未来を切り拓くため、次のとおり提言するものです。

- 1, 奈良県内への中間駅の設置を確実とするため、名古屋・大阪間の環境影響評価の手続きに速やかに着手すること。そのうえで、リニア中央新幹線がもたらす様々な効果を最大限に発揮するため、東京・大阪間を一日も早く全線開業すること。
- 2, 全国新幹線鉄道整備法に基づく基本計画及び整備計画において明記された「奈良市附近」の駅位置は、リニア中央新幹線がもたらす効果を県南部を含む奈良県全体に、また紀伊半島地域にも広く波及させるため、鉄道網・道路網で各地と高い交通結節性を有した最適地に設置すること。
- 3, 様々な波及効果が期待できるリニア中央新幹線の車両基地について、名古屋・大阪間の車両基地は、大阪のターミナル駅の近傍である奈良県内へ設置すること。

令和4年8月9日

「奈良県にリニアを！」の会